

船舶事故等調査報告書

平成24年2月23日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011長第62号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成23年7月5日（火） 16時35分ごろ	
発生場所	長崎県五島市福江港内 福江港3号防波堤北灯台から真方位327° 160m付近 （概位 北緯32° 42.1′ 東経128° 51.3′）	
事故等調査の経過	平成23年7月7日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	旅客船 ペがさす2、163トン	
船舶番号、船舶所有者等	128580、九州商船株式会社	
乗組員等に関する情報	機関長、三級海技士（機関）	
死傷者等	なし	
損傷	右舷主機（ガスタービン）のタービンプレード及びペーンブレード破損	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか3人が乗り組み、乗客125人を乗せ、平成23年7月5日16時30分ごろ福江港の棧橋を長崎県新上五島町奈良尾港に向けて出港し、約20ノットの対地速力に達したところでテイクオフを開始したところ、16時35分ごろ、福江港内において、右舷主機の燃焼ガスタービン入口温度が異常上昇して同主機が自動停止した。</p> <p>本船は、右舷主機の再始動を試みたが振動が大きいため運転を断念し、左舷主機のみで福江港の棧橋に引き返した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南南西、風速 約3～4m/s</p> <p>海象：波高 約0.5m</p>	
その他の事項	<p>主機のガスタービンは、ガスゼネレーター部とパワータービン部で構成され、ガスゼネレーター部は1年ごとに、パワータービン部は2年ごとに主機整備会社の工場へ搬送されて点検整備が行われていた。</p> <p>右舷主機は、本インシデント後に主機整備会社が開放点検したところ、1段タービンプレードの1枚に植込み部の内部を起点とする高サイクル疲労による折損が発見されたが、起点部に材料欠陥は認められなかった。</p> <p>船舶所有者の整備班は、整備基準に従って定期的にマイクロスコープをタービンケース内に挿入してタービンプレード等を点検していたが、本インシデントに係るタービンプレード折損箇所はマイクロスコープ等による外部からの点検ができない箇所であった。</p>	
分析	乗組員等の関与	不明
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、福江港内を航行中、右舷主機のタービンプレードが高サイクル疲労により折損したことから、燃焼ガスのタービン入口温度が異常上昇し、右舷主機の運転を断念したものと考えられる。

原因	本インシデントは、本船が、福江港内を航行中、右舷主機のタービンブレードが高サイクル疲労により折損したため、燃焼ガスのタービン入口温度が異常上昇し、右舷主機の運転を断念したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 定期整備時に入念に損傷個所の点検を行うこと。